平成 28 年度 事務事業評価シート　【　事後評価　】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	02	01	06	124210	**集落活性化推進事業**

総合計画	分野		地域づくり
	政策	4-1	地域主体のまちづくり
	施策	1	地域づくりへの参加促進
目的	人口減少、少子高齢化が進む太田地区において、地域の活性化を推進するため今後10年間の太田地区の将来プランを策定する。		
対象	太田地区住民		
意図	10年後の生活に必要な物流、交通、生活サービスの焼失が懸念されることから、現状を改善する対策を講ずる。		

事業概要　…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

◎太田地区振興会が実施する「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落」形成推進事業に対し補助金を交付し、集落の活性化に資する。
　人口減少や高齢化が先行・加速化する太田地区において、地区全体を一つの生活圏として捉え、集落の役割強化をしつつ、生活維持に向けた取り組みとして「プランづくり」と「社会実験」を行い、結果を検証し、今後の地域づくりに反映させる。
【社会実験】
　予約乗合タクシーを活用した地域交通ネットワークの実験・移動購買車の運行・一人暮らし世帯や高齢者世帯への配食サービスと見守り・声掛けの実施・除雪支援

市民参画の有無　〔 対象外 〕

市民協働の形態					
	共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定
	後援・協賛	○	補助・助成		委託

	活動指標 （上記「事業概要」に対応）	単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	高齢夫婦世帯	世帯	計画	20	22	
			実績	20	22	
②	高齢単身世帯	世帯	計画	17	20	
			実績	17	20	
③			計画			
			実績			
	成果指標 （上記「意図」に対応）	単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	予約乗合タクシー利用者	人	目標	36	45	
			実績	47	53	
②	除雪支援利用者	世帯	目標	35	40	
			実績	18	24	
③	移動購買車利用者	人	目標	－	－	
			実績	－	－	

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

　予約乗合タクシーについて、利用目的（降車場所）の上位は医療機関であり、通院の足として利用され、利用者からは継続希望が多かった。
　除雪支援は、今冬は降雪が少なかったこともあり、利用世帯数は目標値に達しなかったが、地域の支えあい事業として今後も継続実施することとなった。
　移動購買車は、2社と協議交渉をしたが、年度内運行は実施できなかったものの、29年4月から交渉先1社が太田地区内での自主運行を開始した。

目的妥当性	**公共関与の妥当性**		
	○	妥当である	太田地区における物流、交通、生活サービスの現状改善のための社会実験であり、地域による自主的な地域課題解決に向けた事業であることから、公共関与は妥当である。
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		
	○	向上余地がある	太田地区における物流、交通、生活サービスの現状改善のための社会実験であり、地域による自主的な地域課題解決に向けた事業であることから、公共関与は妥当である。
		向上余地がない	
効率性	**事業費・人件費の削減余地**		
		事業費の削減余地がある	事業費には補助金を充てるほか、利用者に対しては一部個人負担も求めることから、削減の余地はない。
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		
		受益機会の見直し余地がある	太田地区全域を対象とした事業であり、利用者に対しては一律一部個人負担も求めるものであることから、受益と負担は適正である。
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価　…上記評価結果の総括

　アンケート調査や住民個々のヒアリングをもとに作成したプランと２カ年にわたる社会実験を生かし、補助金に頼らずとも地域づくり交付金の中でこの取り組みを継続していくことが求められる。

⇒ 平成27～28年度の取り組みを踏まえ、平成29年度は地域づくり交付金を活用した太田地区振興会の事業として、予約乗合タクシー事業と除雪支援事業を継続して実施することを決定。
　また、移動購買車の運行について協議・交渉した結果、平成29年度4月から交渉相手法人（イトーヨーカドー）が主体となって週1回の移動販売車運行を開始した。
地区住民が共に支えあい、安心な暮らしを守る事業を地区振興会が推進する基礎を作った。

平成 28 年度 事業説明資料　　【　事後評価　】

担当部署　部名　地域振興部　　課名　地域づくり課　　担当係長　藤原 良浩　　内線　453

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	02	01	06	124210	**集落活性化推進事業**

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		2,442	2,559		117
財源内訳	国・県	2,442	2,559		117
	地方債				
	その他				
	一般財源				

事業期間	単年度繰返	○	期間限定	〔平成　27　年度　～　平成　28　年度〕

部重点施策における目標

コミュニティ会議の基盤を強化する。（自主的な地域づくり活動の活性化）

事業開始の背景・経緯

人口減少や高齢化が先行・加速化する太田地区において、地区全体を一つの生活圏として捉え、集落の役割を強化しつつ、生活維持に向けた取り組みとして「プランづくり」と「社会実験」を行うとともに、結果を検証し、今後の地域づくりに反映させる。

事業概要

◎太田地区振興会が実施する「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落」形成推進事業に対し補助金を交付し、集落の活性化に資する。

人口減少や高齢化が先行・加速化する太田地区において、地区全体を一つの生活圏として捉え、集落の役割強化をしつつ、生活維持に向けた取り組みとして「プランづくり」と「社会実験」を行い、結果を検証し、今後の地域づくりに反映させる。

【社会実験】

予約乗合タクシーを活用した地域交通ネットワークの実験・移動購買車の運行・一人暮らし世帯や高齢者世帯への配食サービスと見守り・声掛けの実施・除雪支援

事業を展開する上での課題、留意事項　／　意見・要望等

本事業は、国土交通省からの補助金（２年を限度）を活用し将来のプランづくり及び社会実験を行うものであり、補助事業終了後 引続き 地域づくり交付金を活用して取り組みを継続していくとのことであるが、不確定である。

⇒ 平成29年度は、地域づくり交付金を活用した太田地域振興会による事業として、予約乗合タクシー事業と除雪支援事業を継続して実施

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

●「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業

集落活性化推進事業費補助金　3,000千円　※県内では本市のみ。

※国（国土交通省）補助事業【国10/10→市→地域（太田地域振興会】
・補助対象経費：市町村以外の者が事業を実施する経費に対する市町村の補助に必要な経費
・事業主体：事業を行う地域の市町村長が認定したまちづくり協議会など
・補助対象事業：プランづくり・社会実験
「小さな拠点」を含む生活圏のあり方の検討、全体構想の検討・策定の他、具体化に向けた社会実験の活動に必要な事業
・補助率等：プランづくり・社会実験　定額補助（１件当たり上限300万円）２か年度以内

全体計画　（単位：千円）

取組・検討事項等		平成２７年度（実績） 概　要	経費	平成２８年度（実績） 概　要	経費
プランづくり	①地域の点検、住民ニーズの把握	アンケート調査、まとめ 印刷費用	321 460		
	②活動計画の検討	ワークショップの開催 (ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ謝金)	302		
	③活動を実施するための体制検討	アドバイザー謝金	100	アドバイザー謝金	409
	④先進地視察	島根県	492		
	⑤プラン(案)の作成	アドバイザー謝金	101		
	⑥プランの合意形成、プランの確定	シンポジウムの開催 プラン印刷費	304 100	シンポジウムの開催	501
社会実験	①予約乗合タクシーを活用した買物や通院などの実験	予約乗合タクシー借上料	208	予約乗合タクシー借上料	1,290
	②サロンへの移動購買車の運行			地区内団体へ委託	0
	③配食サービス、見守り・声かけ			地区内団体へ委託	238
	④除雪支援	地区内団体へ委託	54	地区内団体へ委託	121
全　体			2,442		2,559